

高大連携通信

発行 兵庫県立神戸高等学校新学科検討委員会
第11号 平成14年(2002年)10月10日(木)

第2回講義は「建築学科」でのコンピュータ利用例の紹介

講義担当の谷 明勲先生は「神戸高校の先輩(26回生)」だった!

10月9日、最初の講義は、最近の建築学のお話だった。講義の最初に、先生の自己紹介があり、神戸高校26回生であること、昔の高校では全教科の授業があったこと、灘区に現在まで居ついていることなどの話があった。講義の内容では、最初から「線形、非線形な関係」、「微分方程式(運動方程式の一般的数学表現)」、「ファジィ」、「ニューラルネットワーク(人間の神経回路網のコンピュータ上での実現)」と、数学、物理、生物の難しい言葉が続出して大変だった。難しい数式表現の部分はパスしての講義であったが、コンピュータを使った都市の発展、地震のシミュレーションをコンピュータを使ってビジュアルに表現した授業は、見るだけでわかるもので面白かった。工学部の建築学科なのに生物の神経系の専門用語まで出てくるのを見ると、私は物理選択者、生物選択者などいいわけでは通用しない現実を見た気持ちでした。日常から常識としての科学知識を新聞やテレビなどから吸収しておくことが将来の自分のためになることを忘れないでください。

講義内容概略 建築系の学科がどのようなことをしているのかから始まった。建築物における全体の構成(発注者、施工者、行政)の関係と、それぞれから見た建築物に対する要求などの実現、調整が必要になる。コンピュータを利用して、これらを建築物の施工前に検討するいろいろな手法を説明、紹介することが講義の中心だった。都市の発達、外乱要因としての地震対策としての耐震、免震、制振設計、人の移動動線設計などをコンピュータ・シミュレーションにより研究する具体的な手法とCGによるわかりやすく映像化して、見せてもらった。授業後、何人かの生徒が講師の先生に質問をし、講師の先生も親切に対応してくれて30分近く時間オーバーになってしまいました。これからの講義でもわからないことはどんどん質問をして見ましょう(高校の先生よりていねいかもしれません)。

～ キャンパス夕景 ～ 神戸大学まで歩いてみると…

少し早めの午後4時に神戸高校を出発し、4時7分に六甲登山口バス停に到着、ここから国際文化までの坂道に挑戦です。バス道を登り工学部前バス停から大学内の道を横切ると到着です。4時30分に国際文化への陸橋に到着しました。歩いてちょうど23分かかりました。すでにベンチに座ってくつろいでいる女子2名がいました。神戸高校から40分程で歩いてきたそうです。皆さん元気ですね(私には無理ですが)。早めに到着して、食堂、生協購買部、図書館などの探検もたまには面白いと思いますが、どうでしょうか。大学生の目が気になるかもしれませんが、堂々とした態度で対応すればよいのです。図書館の人も高大連携講座については連絡を受けているようでしたから、図書館の利用にも挑戦してみましょう。

高大連携は全国的に始まっている! (一般講義参加方式)

■広島大などで「高大連携」初の授業 '02/4/12 (中国新聞)

<<http://www.chugoku-np.co.jp/News/Tn02041205a.jpg>>

広島県内の大学や短大が高校生に授業を公開する「高大連携」の初授業が11日、広島大と県立広島女子大でスタートし、計5人の高校生が大学生と机を並べた。二校に続き、参加する他の計15大学・短大でも順次始まる。

広島市中区の広島大東千田キャンパスでは、午後5時45分から「生物学」を公開。広島市と東広島市の高校2、3年生3人が、講義室の最前列に座って、学生41人と一緒に授業を受けた。

総合科学部の渡辺一雄教授が「授業レベルは従来通りだが、リラックスして聞いてください」と語り掛け、3人もほっとした表情を見せた。

県立広島商業高3年の濱本奨さん(17)は「理系の学部が志望。講義の雰囲気味わいながら、学問を楽しみたい」と意気込んでいた。

この日は、南区の県立広島女子大でも、生活科学部の授業「心の科学」に、同学部の1年生103人に交じって広島と廿日市市の高校2年生2人が参加。今後、半期計15回ある授業を受講する。

17の大学・短大は本年度、公開授業86科目と、15の公開講座を用意。受講すると、高校の修得単位としても認められる。県教委などを窓口、県立高と私立高、市立高計152校から約250人の高校生が受講を申請している。